

図書館企画展 **ジャンヌ・ダルク**  
 ~芸術鑑賞にちなんで資料を集めてみました~

図書館だより号外  
 仙台三桜高等学校  
 2019.06.26

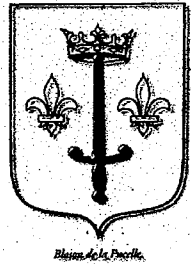
芸術鑑賞会：演劇「ジャンヌ・ダルク：ジャンヌと炎」

日時：7月5日（金）13：00～ 合唱祭の午後  
 場所：仙台サンプラザホール  
 劇団：東京演劇集団「風」

**はじめに**

ジャンヌ・ダルクを知っていますか？  
 絵画や小説、映画や演劇、ゲームなどでたびたび取り上げられることの多いフランスの少女ですね。  
 活躍した年数は短いですが、なぜ、人々の記憶につよく残るのでしょうか？  
 三桜図書館所蔵の本から、ジャンヌの生涯とフランスの歴史を紐解いてみましょう。  
 展示してある本は貸出できます。  
 貸出中の場合には、カウンターで予約してください。

どのように演じられるかわかりませんが、予習しておけば、楽しく見ることができると思います。



パリ高等法院の書記がオルレアン解放のニュースを聞いて描いたもの。彼が、実際にジャンヌを見て描いたかは分からない。

**ジャンヌ・ダルク (1412~1431)** ※詳細は裏面の年表で確認

百年戦争の後期、フランスが劣勢の時に、13歳で神の声を聞き、オルレアン解放の戦いに司令官として参戦、勝利。シャルル7世をフランス王として戴冠させたが、次第に冷遇されるようになる。

戦いに敗れ、フランス王と敵対するブルゴーニュ公に捕らえられ、イングランドに売られる。異端審問ののち魔女として火刑に処せられる。19歳だった。遺灰はセーヌ川に流された。

比較的裕福な農家に生まれ、幼少時から信仰心が篤かった。文字の読み書きができなかったといわれる。(当時としては珍しくない。)男装して戦争に参加。女性が男装することだけで、宗教上問題となる時代であった。ジャンヌはシェイクスピアの戯曲『ヘンリ6世』に魔女として描かれている。

ジャンヌの死後も彼女の歴史は続く。

百年戦争で勝利を取ったシャルル7世は、彼女の死から25年後、異端裁判を再調査した。1456年7月、彼女は復権することとなる。

時は流れ、ナポレオンの時代になると、彼はジャンヌの活躍を取り上げ、「救国の少女」として称賛した。

さらに第一次世界大戦が終わり、ベルサイユ条約が締結された翌年1920年、彼女は聖人に列せられた。

**文献リスト (主なもの)**

- 1 ジャンヌ・ダルク：フランスを救った奇跡の少女 (小学館版学習まんが人物館) たまきちひろ漫画 小学館 2011
- 2 奇跡の少女ジャンヌ・ダルク (知の再発見双書) ジェヌ・ベルヌ著 創元社 2002
- 3 ジャンヌ・ダルク：フランスに生涯をささげた少女 (ふくろうの本) 上田耕造著 河出書房新社 2016
- 4 英仏百年戦争 (集英社新書) 佐藤賢一著 集英社 2003
- 5 ジャンヌ・ダルク：超異端の聖女 (講談社現代新書) 竹下節子著 講談社 1997
- 6 ジャンヌ・ダルク：歴史を生き続ける「聖女」 (岩波新書新赤版) 高山一彦著 岩波書店 2005

**百年戦争 (1339~1453) とは**

簡単にいうと、イングランド対フランスの王位継承権と領土をめぐる戦争。そこに、フランドル地方の毛織物原料調達問題や、フランス国内の有力諸侯の権力争い、ペスト (黒死病) が流行したこともあって戦争は複雑化、長期化していた。

一時、戦争はイングランドの勝利で終わるかに見えたが、英仏両国の王が相次いで亡くなり、戦争は続行。英王ヘンリ6世 (生後9か月) が英仏両国の王として即位するが、仏国には王太子シャルルがいた。彼は国内諸侯の助力を得られず仏王として即位できない状態に。戴冠式を行うランスの町は占領されていて、行くことができない。

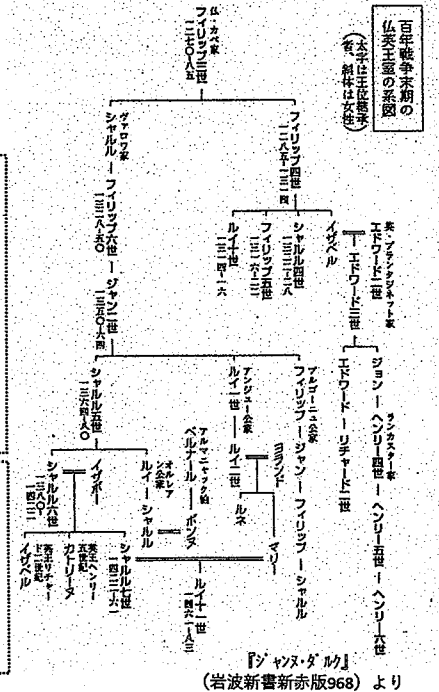
仏国内の庶民は「英王軍に蹂躪されるのは王家に力がないから」と怒りの矛先は王家へ。シャルル王太子はシノン城で第3会議を開き、ひろく住民に協力を求めたが、うまくいかない。そこへジャンヌ・ダルクがやってくる。

**【開戦時】**

13世紀末、英王が仏フィリップ4世の王女と婚姻。生まれた子どもがエドワード3世として即位する。仏王フィリップ4世が死去すると直系の継承者が絶えた。英王エドワード3世は仏王位継承を主張するも、傍系のフィリップ6世が仏王になる。スコットランド問題で英仏の関係が悪化。エドワード3世は「傍系の現フランス王より、直系の自分に継承権がある。」として宣戦布告する。

**【ジャンヌの時代】**

ヘンリ6世英王が仏王両国の王として即位。シャルル王太子、王位継承の危機。



**英雄ジャンヌ・ダルクとフランスの歴史**

農家の少女に過ぎなかったジャンヌがなぜ英雄になり、聖人になったのか？フランスの歴史から見てみよう。  
 百年戦争のころは、フランス人には「自分はフランス人だ」という意識が芽生えていませんでした。  
 宗教の影響力が強く、ペストが流行し、戦争は終わらず庶民の生活は楽ではありませんでした。そこに神の声を聞く「神の乙女」が登場しました。住民たちはジャンヌのもとに一つになりオルレアンを解放し、シャルル7世を即位させました。  
 時が流れ、18世紀末から19世紀にフランスは激動の時代を迎えます。国民の結束が揺らぎだすと、ナポレオンはジャンヌの軍事行動を称賛し、国民の意識を一つにしようとしました。  
 1919年第一次世界大戦が終了しベルサイユ条約が締結されます。翌1920年ジャンヌは聖人の列に加えられます。  
 このようなことから、「ジャンヌ」は、国難に遭遇した人々の結束を促し勇気付けてきたのではないかと、という説があります。あなたはどうか考えますか？

ジャンヌ・ダルク関連年表

ジャンヌ・ダルク関連年表

年	フランスの歴史	ジャンヌの歴史	日本の歴史
1339 (1337?)	英仏百年戦争勃発 (~1453)		1338 尊氏、征夷大将軍に。 1339 後醍醐天皇、没。
1412ごろ		<b>フランス東部ドンレミ村に生まれる。</b>	
1415	英国ヘンリ5世、ブルゴーニュ公と手を結びノルマンディに侵入。		1400 世阿弥「風姿花伝」。
1418	英軍パリ占領。		1404 明と勘合貿易。
1420 5月	英仏間でトロワ協定締結。英王ヘンリ5世、仏王女カトリーヌと結婚し、王位継承権を獲得。		1408 義満、没。
1422	英王ヘンリ5世死去。 仏王シャルル6世死去。 英王ヘンリ6世(生後6か月)の摂政がノルマンディ、ピカルディ、パリなどロワール川以北を占領。 英王ヘンリ6世、英仏国王を兼ねる(仏国での戴冠式はしていない)。仏国シャルル王太子、王位継承できず。		
1425		<b>神のお告げを聞く。(13歳)</b>	
1428		5月 お告げに従い、故郷を出て、ヴォークルール要塞に行く。	
10月	オルレアン、英軍に包囲。食糧に窮す。		
1429 2月23日	シャルル王太子(28歳)、ジャンヌに会う。	<b>2月23日 シャール王太子に会う。(17歳)</b>	1429 中山王尚巴志、琉球三山の統一。
		3月 聖職者による尋問を受ける。 専用の甲冑と旗を作る。	
		4月29日 戦闘司令官としてオルレアン到着。	
		5月4日 戦闘開始。 キリスト昇天の日のため戦闘休止。	
		5月5日 止。英軍に3度目の手紙を送る。	
		5月6日 占領されていた砦を奪回。	
		<b>5月7日 負傷。オルレアンを解放。</b>	
		日曜日の安息の日のため戦闘休止。	
5月8日	英軍オルレアン撤退。	5月8日	
		6月18日 バテーの戦い。勝利。	
		6月29日 ランスに向けて出発。	

年	フランスの歴史	ジャンヌの歴史	日本の歴史
7月17日	<b>ランスでシャルル王太子戴冠。シャルル7世になる。</b> シャルル7世、ジャンヌを冷遇し始め、敵対関係にあるブルゴーニュ公と交渉し、15日間の休戦に入る。 シャルル7世、パリを目指す。		
8月15日		サンリスで英軍を挑発するも戦闘にならず。	
9月8日		パリ近郊で戦闘。形勢不利。撤退。	
10月4日		ラ・シャリテの戦闘。失敗。 神の啓示。「あと一年は生きられるがそれ以上は無理。」	
1430 4月	シャルル7世、ブルゴーニュ公に不信感を持つ。 ブルゴーニュ公、仏王家ゆかりの都市を占領。		
5月23日		<b>コンピエーニュで戦闘。城門の外に締め出され、ブルゴーニュ公の捕虜になる。</b>	
11月		金銭と引き換えに英軍に引き渡される。 英軍に近いブルゴーニュ派コーション司教による異端予備審問始まる。 ジャンヌ病気になる。自然死を望まない英国の手当てを受ける。	
1431		1月9日	
		4月	
		5月28~29日	
		異端裁判。	
		<b>5月30日 火刑。(19歳)</b>	1433 明と国交回復。
1449 11月	シャルル7世、ノルマンディ奪回。		1441 山城に徳政令発布。
1450		ジャンヌ・ダルク裁判の調査開始。	
1453	百年戦争終結。	ノートル・ダム大聖堂で復権裁判の道が開かれる。	(世界では 1453 東ローマ帝国滅亡)
<b>1456</b>		<b>7月 異端裁判の無効。復権。</b>	1467~ 応仁の乱。
1804	ナポレオン、ジャンヌを称揚。		
1919	ベルサイユ条約締結。	聖列承認。	
1920	国際連盟発足。	<b>聖女に列せられる。</b>	1920 平塚らいてう、新婦人協会設立。